



生き生き人生 わくわく私

## 「漆のみんなできれいな 梅を咲かせます」

漆を想う会

は  
さ  
羽 座 彰さん

(中山町漆地区)

中山町の遊栗館に入る信号を左折し、踏切を越えて車で10分ほど山道を行くと、手入れの行き届いた棚田に梅が植えられ、民家が点々と建つ、日本の原風景ともいえる里山に辿り着きます。そこが漆地区です。

「昔は、梅の栽培はしてなかった。戦後、漆地区の先輩が、漆は水も豊富だし、土の湿気も適しているから梅を栽培するのに良い。という指導があつて、梅を栽培するようになったんです。」

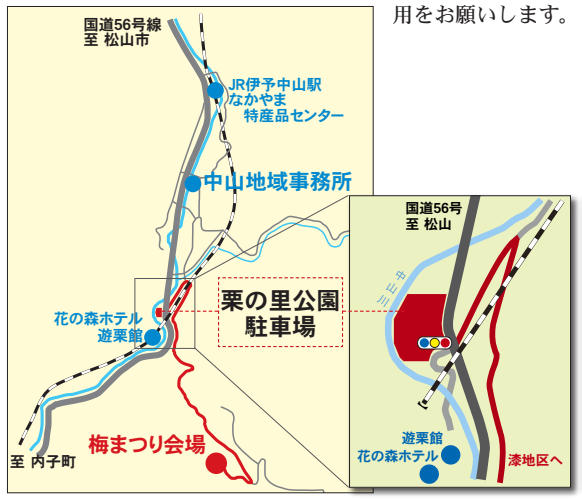
こんな話をしてくれる、羽座さんは、現在76歳。20アールの梅林を耕作しており、時には木に登って剪定作業をしたり、収穫の時期には、果



### 第14回 棚田の里 漆の梅まつり

- 日時 3月2日(日)、10:30~15:00
- 場所 中山町漆地区
- 内容 写真撮影会、俳句コンクール、お琴演奏、スタンパラー、ふるさと市(中山の特産品)、バザー(うどん・お寿司)、餅つき実演、地元で採れた野菜の販売など
- 問い合わせ  
中山地域事務所地域振興課(☎967-1111)

※イベント会場には、駐車場がありません。「なかやま栗の里公園駐車場(下図)」からのシャトルバス(15分ごと)の利用をお願いします。



実に傷が付かないように気を配り、地面へ落ちる前に収穫して選別したりと忙しい日々を送っています。

漆地区の梅は、紅梅(こつばい)・古城(こじろ)・鶯宿(おうしゆく)・南高(なんこう)など数多くの梅が植栽されており、今年の花の見ごろは2月中旬から3月末まで楽しめます。

「今ではこの季節になると、松山や宇和島、広島などからも、梅を見に来てくれますよ。写真を撮ったり、絵を描いたりする人もいます。」

羽座さんは、今年で14回目となる「棚田の里 漆の梅まつり」に第1回から中心となって携わっています。

「梅まつりを始めたきっかけは、当時の中山町の職員の声掛けからでした。最初は5、6人で始めまし

たが、数年経つと漆地区のみんながこのイベントに賛同して、『漆を想う会』ができました。」

漆地区のみんなで結成された『漆を想う会』は、梅まつり当日に、うどんやお寿司、お餅の実演販売をしたり、地元産の梅干しや野菜、梅の切り花などの販売をしています。

これまでの梅まつりでは、大雪やヒョウが降ったこともありましたが、中止することなく開催することができました。

「いろいろな方から、私たちが一生懸命育てた梅の花を見て『きれいですね』『言ってもうえる』『すごい』うれしい。これからも体が元気なうちは梅の栽培に励み、きれいな梅の花を咲かせたい。」